
部活動改革に対する学生意識調査結果

一般社団法人 スポーツを止めるな



はじめに

今回は、スポーツ庁及び文化庁が2022年11月に提案した「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン（案）」に対する意見募集の際に、当社団が実施した部活動改革に関するアンケートの結果及びスポーツ庁に提出した意見書を公開します。この意見募集は2022年12月27日に公開された「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」の策定に向け、スポーツ庁により2022年11月17日から12月16日の間で実施されました。

スポーツを止めるなは、部活動改革の当事者の意見を届けるため、中学生・高校生・大学生・指導者、合計1201名を対象としたアンケートを実施し、その結果をまとめた上でスポーツ庁に意見書を提出しました。アンケートでは、ガイドライン案の中でも、学生の皆さんに影響が大きい9項目に関する賛否およびその理由について、広く意見を集めました。アンケートの結果、全体として改革の方針に賛成が多い一方、会費の設定や地域クラブの整備など一部の項目においては反対が多くなっていることなどが分かりました。当社団としては、今回の活動を通じて当事者である学生や指導者の方々の意見がガイドライン及び政策に反映されることで、学生にとってよりよい活動環境が整備されることを期待しています。

最後になりますが、本アンケートにご協力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。当社団は今後も学生アスリート支援のため、活動を続けてまいります。

部活動改革に対するアンケート結果

アンケート概要

実施期間：2022年12月8日～23日

#12月16日までの内容をまとめてパブリックコメントとして提出

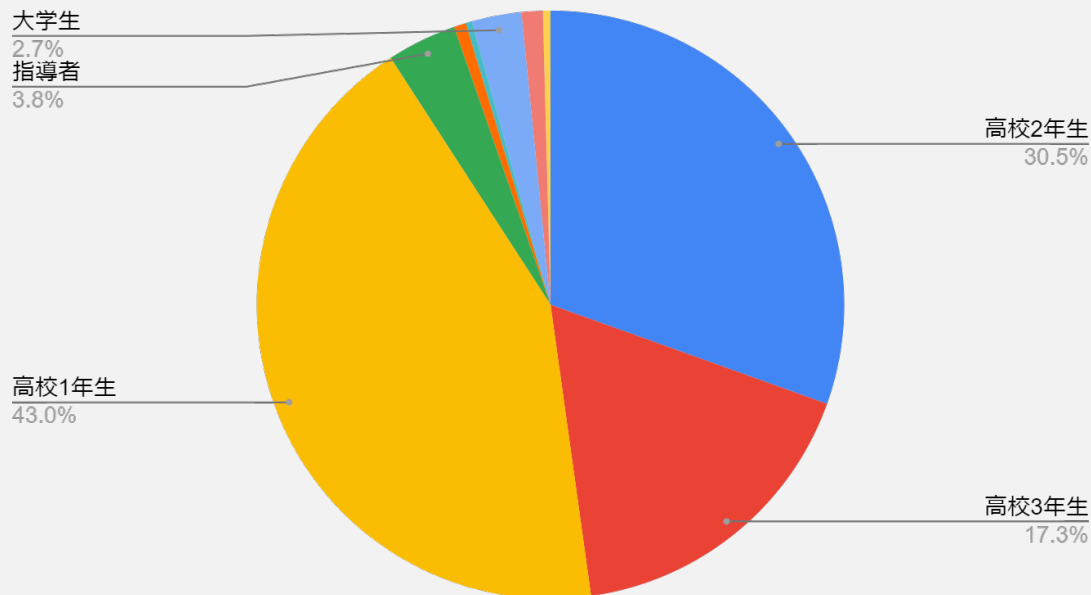
実施方法：オンラインアンケート

「スポーツを止めるな」の活動に賛同・参加いただいた学校・チームを中心に、メールや電話にて回答を直接依頼。加えて、SNSや、スポーツ選手を中心としたスポ止賛同者・上記学校や学生からの拡散等。部活動を行っている学生の生の声を多く集めるため、直近の部活動改革の対象か否かに関わらず、広く意見を募集した。

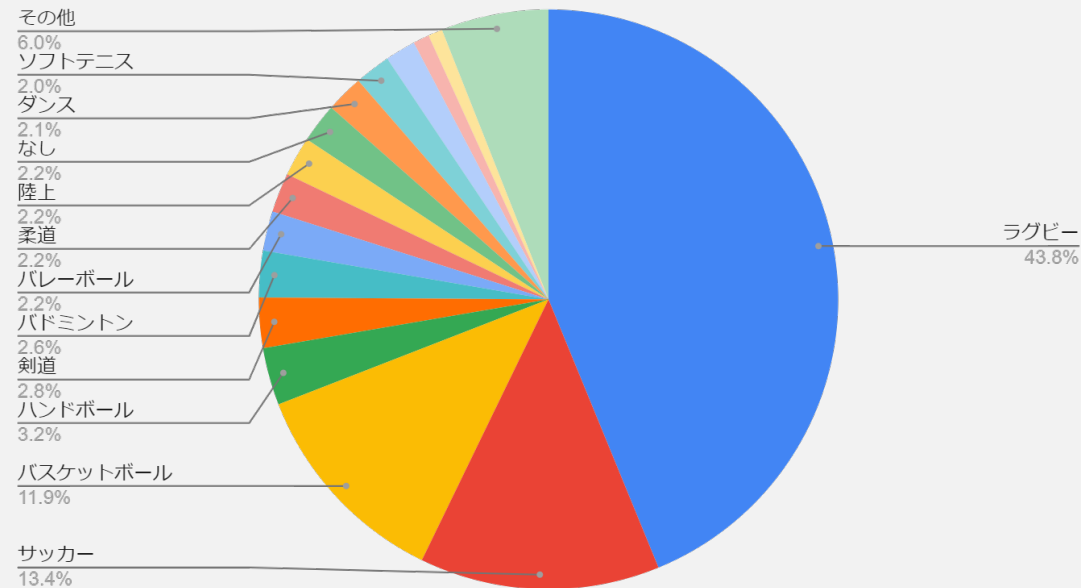
回答者数：1201名（内訳＝高校生1091名・中学生23名）

主な競技：ラグビー、サッカー、バスケットボール

【学年別割合】



【競技別割合】



結果の概要

全9項目における賛否の平均は、大賛成29.0%、やや賛成27.3%、大反対4.5%、やや反対8.1%となっており、全体的に賛成・やや賛成の割合が高い項目が多かった。

特に賛成の割合が高かった項目は、**Q3「多様なニーズに応じた活動環境の整備」**（賛成・やや賛成で80.1%）、**Q5「多様な指導者の確保」**（賛成・やや賛成で78.6%）であった。

一方で、反対の割合が高かった項目は、**Q7「会費の適切な設定と保護者等の負担軽減」**（大反対・やや反対で25.9%）、**Q4「地域クラブの整備」**（大反対・やや反対で20.0%）であった。

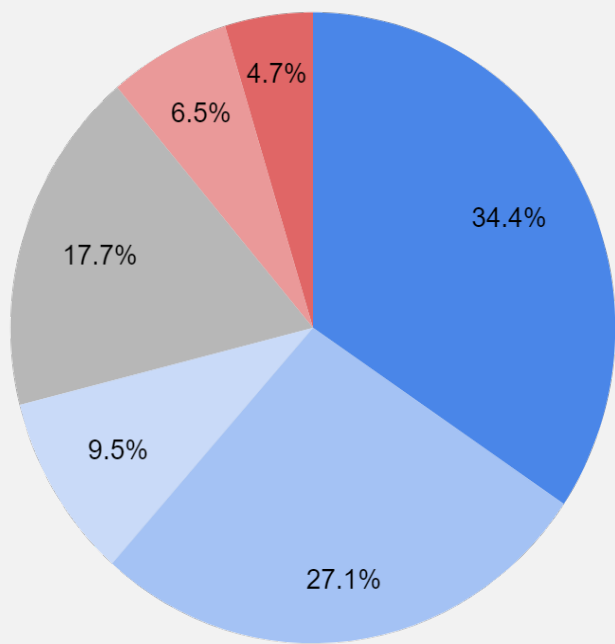
さらに、**Q4「地域クラブの整備」**、**Q6「複数競技への取組を可能にする環境整備」**ではどちらとも言えないの割合が約3割となっており、賛否を決めかねる割合が高かった。

以上のように、全体として部活動改革の方針に対し賛成が多い一方で、一部の項目においては反対やどちらとも言えないが多くなっていた。特に反対やどちらとも言えないの割合が高い項目については、様々な当事者の意見を聞きつつ、改革の影響を精査する必要があると言える。

Q1 「適切な休養日等の設定」 に対する賛否・感想

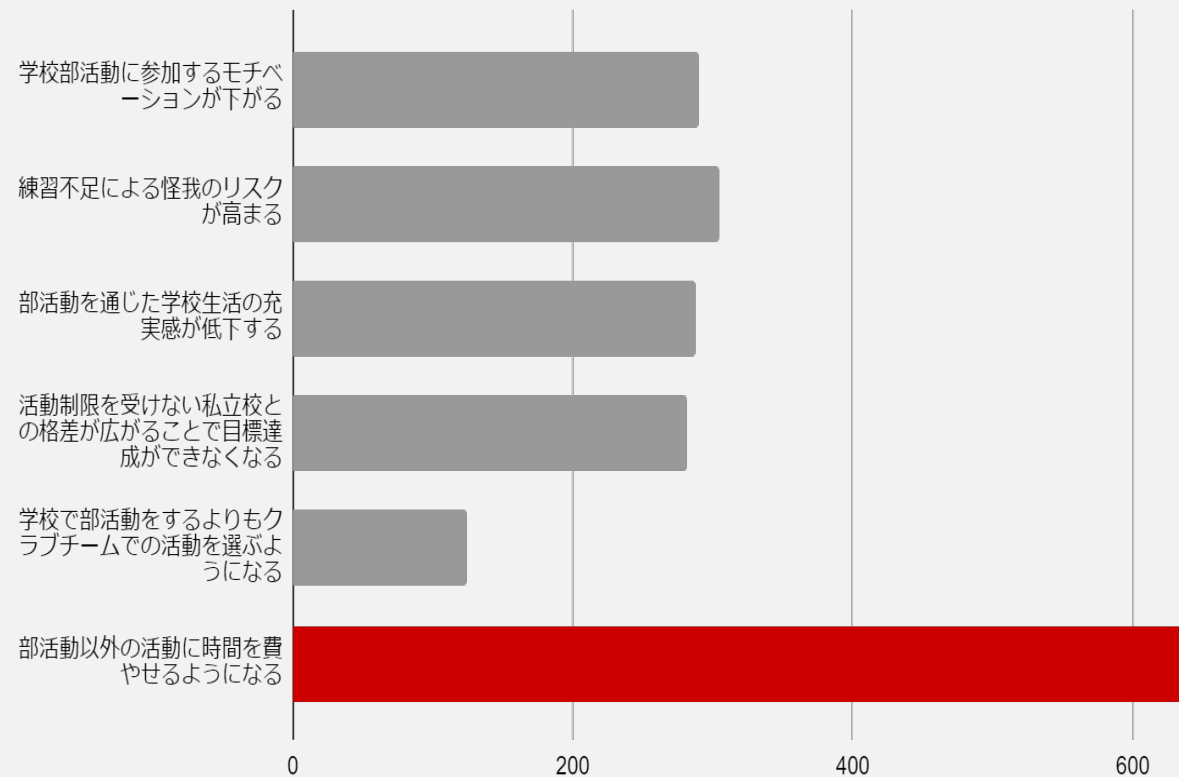
活動時間の制限に関して、大賛成・やや賛成で61.5%となった。
感想としては、「部活以外の活動に時間を費やせるようになる」が最も多い。
一方で、「部活動に参加するモチベーションが下がる」などの懸念もみられた。

Q1：学期中は週2日以上（平日1日、週末1日以上）の休養日（平日1日、週末1日以上）を設定し、1日の活動時間を、平日では2時間程度、休日は3時間程度とするなど、活動時間が制限されることについてどう思いますか？



● 大賛成 ● やや賛成 ● 望ましくないがやむを得ない ● どちらとも言えない ● やや反対 ● 大反対

Q1の活動制限による影響や感想としてどのようなものがありますか？



Q1 「適切な休養日等の設定」 に対する賛否の理由

Q1 の回答を選択した理由についてお聞かせください。（任意・自由記述）

主な賛成の理由

- ・ 長時間の練習をすると疲労が蓄積し、集中力も持たなくなってしまう
- ・ 部活動以外の活動に時間を費やすことができるようになる
- ・ 休息を取ることで、より強度の高い練習ができるようになる

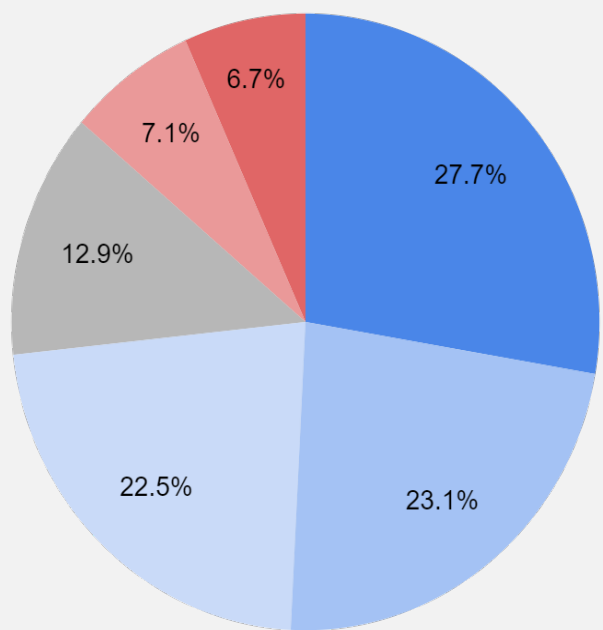
主な反対の理由

- ・ 指導者が生徒の体調等を見ることができれば日数等を規則で制限する必要はない
- ・ 練習時間が少なくなることで競技レベルの低下が起こりうる
- ・ これまで行うことができた練習を行うことができなくなってしまう

Q2「合同部活動の取り組み推進」に対する賛否・感想

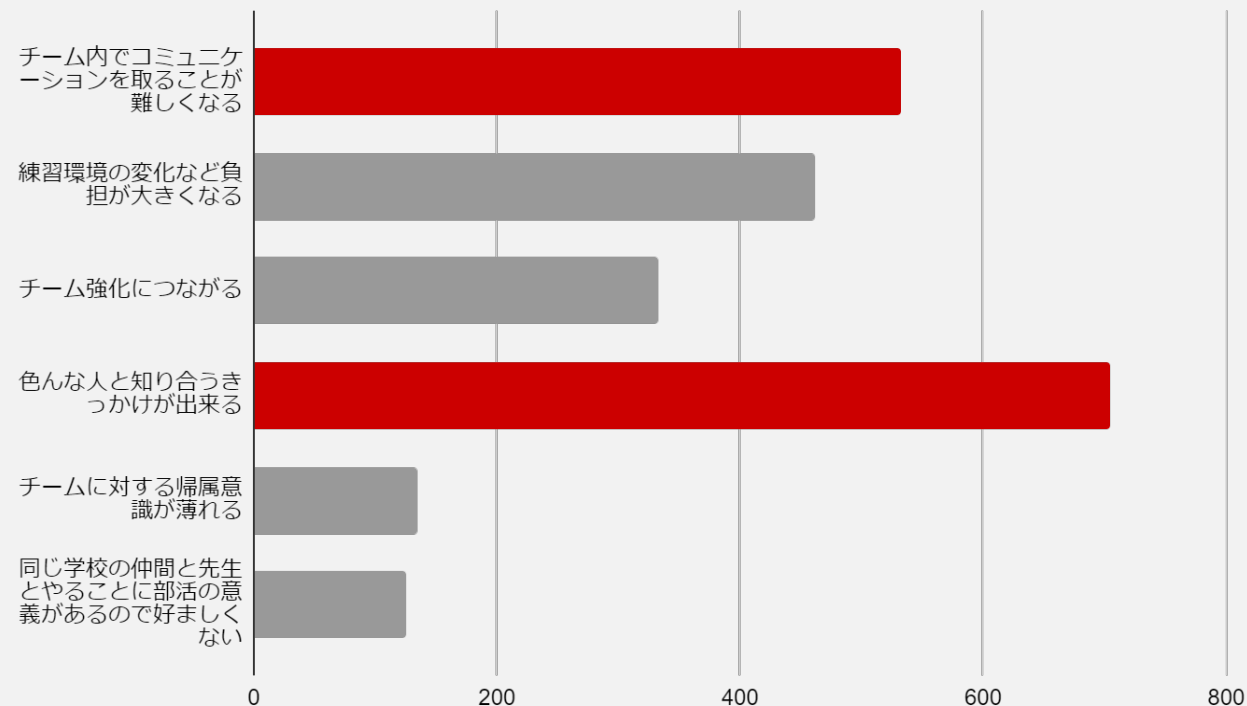
合同チームの結成に関して、大賛成・やや賛成で50.8%となった。
感想としては、「色んな人と知り合うきっかけが出来る」という肯定的なものがある一方、「チーム内でコミュニケーションを取ることが難しくなる」という懸念もみられた。

Q2：部員減少や指導者不足などの理由で単一の学校で学校部活動を継続することが難しい場合には、複数校で合同チームを作り、部活動を行うことになりました。これについて、どう思いますか？



● 大賛成 ● やや賛成 ● 望ましくないがやむを得ない ● どちらとも言えない ● やや反対 ● 大反対

Q2の複数校での活動による影響や感想としてどのようなものがありますか？



Q2「合同部活動の取り組み推進」に対する賛否の理由

Q2の回答を選択した理由についてお聞かせください。（任意・自由記述）

主な賛成の理由

- ・他校との交流が増え、視野を広げるきっかけになる
- ・他者と交流することで自分の技術が向上し、相手もそれに併せて上手になる
- ・人数が多いほうが練習の効率やメニューの幅が広がる
- ・今年の鳥取県の高校ラグビーでは、3校中2校が人数が足らず、残りの1校が1試合もせず花園本戦に出場したため、現状を考えると現実的である

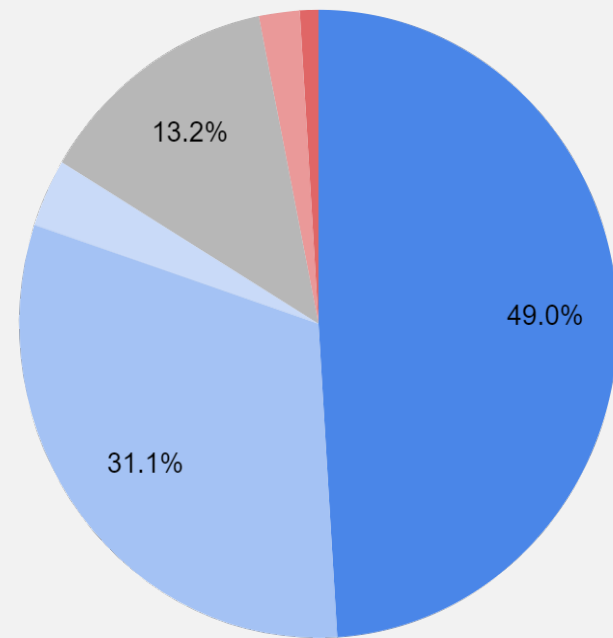
主な反対の理由

- ・チームの伝統を保つことが難しくなる
- ・自分の学校で大会を優勝したい
- ・移動等で練習時間が少なくなってしまう
- ・チームスポーツでは単一校よりも連携等が難しい
- ・場所の確保や引率、生徒の怪我の際の責任の明確化などが難しい

Q3「多様なニーズに応じた活動環境の整備」に対する賛否・感想

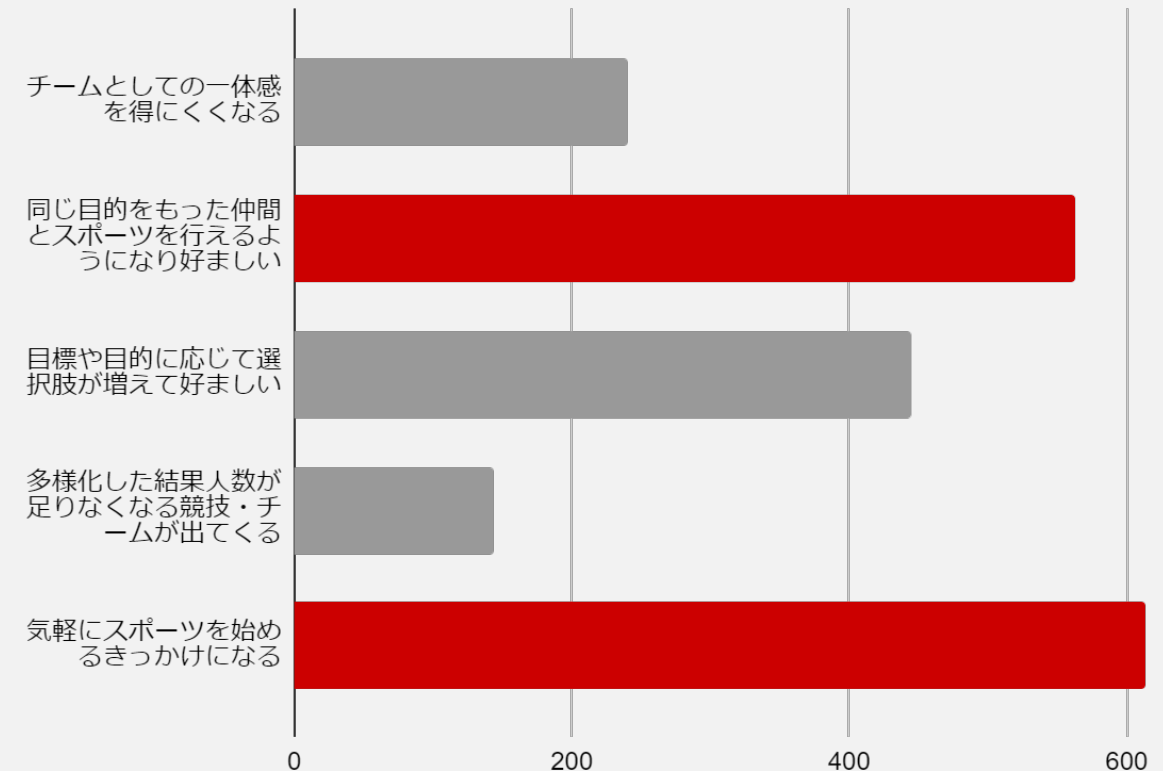
多様なニーズに応じた活動のための環境整備について、大賛成・やや賛成で80.1%となった。感想としては、「気軽にスポーツを始めるきっかけになる」や「同じ目的をもった仲間とスポーツを行えるようになり好ましい」などが多くみられた。

Q3：性別や障害を問わず、技能等の向上や大会等での好成績を収める以外にも、気軽に友達と楽しめる、適度な頻度で行える等多様なニーズに応じた活動が行うことができるよう環境を整備することが考えられています。これについて、どう思いますか？



● 大賛成 ● やや賛成 ● 望ましくないがやむを得ない ● どちらとも言えない ● やや反対 ● 大反対

Q3の多様なニーズに応じた活動による影響や感想としてどのようなものがありますか？



Q3「多様なニーズに応じた活動環境の整備」に対する賛否の理由

Q3の回答を選択した理由についてお聞かせください。（任意・自由記述）

主な賛成の理由

- ・ より多くの人々がスポーツを楽しむことができる
- ・ 様々な人と交流する機会を生み出すことができる
- ・ 生涯を通じてスポーツに関わることができるようになる

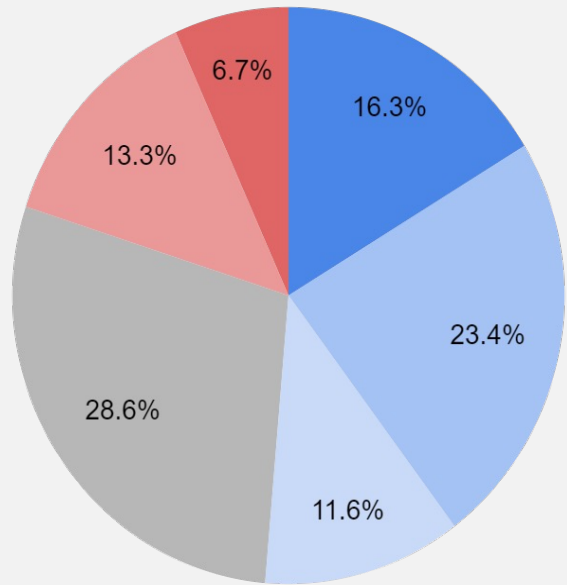
主な反対の理由

- ・ 勝敗にこだわり、本気でやるからこそ面白いと思う
- ・ 分野によっては適度な頻度の気軽な活動があっても良いが、運動部などは、ある程度制約のある厳しさの中にこそ充実感のある活動があると思う

Q4「地域クラブの整備」に対する賛否・理由

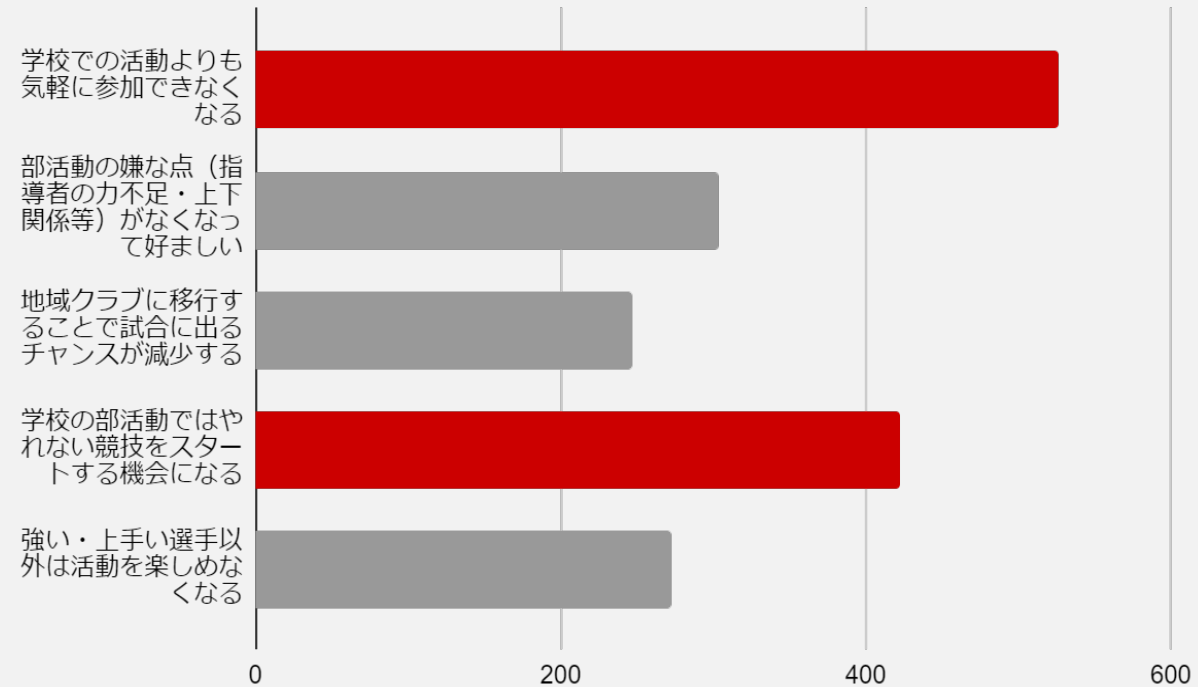
地域クラブへの移行について、大賛成・やや賛成が39.7%、大反対・やや反対が20.0%となった。
感想としては、「学校での活動よりも気軽に参加できなくなる」という懸念や、
「学校の部活動ではやれない競技をスタートする機会になる」という期待が多くみられた。

Q4：単一の学校の部活動から、地域クラブに移行することについて、どう思いますか？
(地域クラブは、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、体育・スポーツ協会、競技団体、クラブチーム、プロスポーツチーム、民間事業者、フィットネスジム、大学、保護者会・同窓会、複数校の統合チーム等多様な形が想定され、地域の実態やニーズ等に応じて決定されます。)



● 大賛成 ● やや賛成 ● 望ましくないがやむを得ない ● どちらとも言えない ● やや反対 ● 大反対

Q4の地域クラブに移行することの影響や感想としてどのようなものがありますか？



Q4「地域クラブの整備」に対する賛否の理由

Q4の回答を選択した理由についてお聞かせください。（任意・自由記述）

主な賛成の理由

- ・より専門的な知識を得られる可能性があり、競技力向上に繋がる
- ・学校という枠に捉われずに、地域等との交流も深められることはプラスになる
- ・すでに剣道は道場主体で、中体連はほとんどの学校で指導者不足となっているため、地域クラブへの移行が望ましい

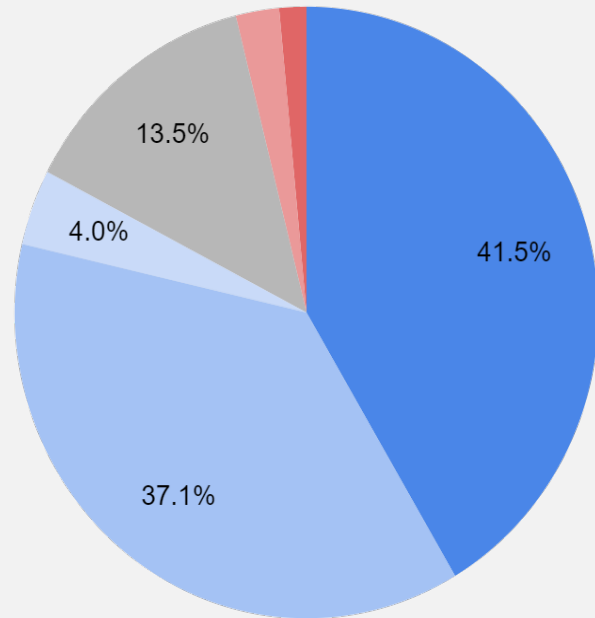
主な反対の理由

- ・高校のチームとして活動したほうがチームとしての充実感や一体感が上がる
- ・今現在の部活動の形で活動することが自分の高校生活の楽しみのひとつ
- ・スポーツをする生徒は激減する可能性があり、種目によってはチーム数が大幅に減って衰退に向かう可能性が高い。部活動から移行するのではなく並立・リンクする方がいいと思う
- ・地域では人材が揃わず、寧ろ生徒のスポーツを行う機会を減らす可能性がある

Q5 「多様な指導者の確保」 に対する賛否・感想

多様な指導者の確保について、大賛成・やや賛成が78.6%となった。
感想としては、「プロコーチ等その競技の専門家から学べることが好ましい」というものが多くみられた。

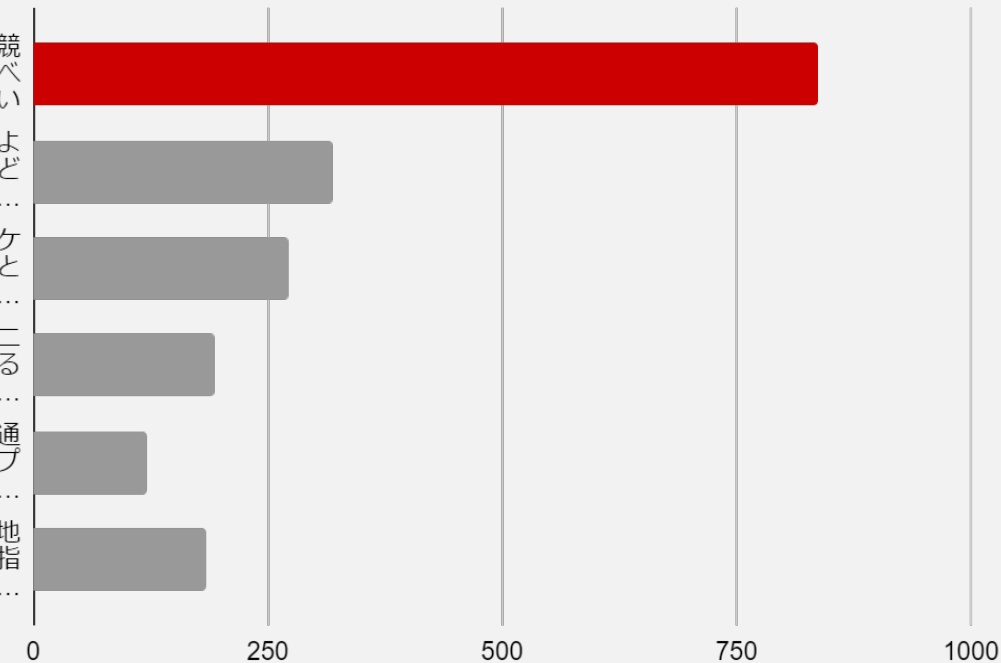
Q5：地域クラブに移行することで、指導者が学校の先生だけではなく、プロの指導者、元プロ選手、競技・活動経験のある大学生や保護者など、多様な関係者から確保されることになります。これについて、どう思いますか？



● 大賛成 ● やや賛成 ● 望ましくないがやむを得ない ● どちらとも言えない ● やや反対 ● 大反対

Q5の地域クラブに移行して指導者が変わることを影響や感想としてどのようなものがありますか？

プロコーチ等その競技の専門家から学べる
ことが好ましい
指導者との相性によ
って競技を選ぶなど
選択肢が広がるこ...
普段からコミュニケ
ーションを取ること
の出来る学校の先...
指導者とのコミュニ
ケーションを取れる
環境にないことに...
自分がスポーツを通
じて得たい経験はプ
ロコーチに変わる...
学校部活動よりも地
域クラブのほうが指
導者の力量によっ...



Q5「多様な指導者の確保」に対する賛否の理由

Q5の回答を選択した理由についてお聞かせください。（任意・自由記述）

主な賛成の理由

- ・学校教育以外での多様な考え方を獲得することに繋がる
- ・スポーツ経験がない教師から教わるよりも技術が向上する
- ・多様な関係者と関わることで、より自分自身の技術向上ができ、人間関係を築くためにも良い機会になる
- ・教員が授業準備や教材研究に時間を割くことができるようになる

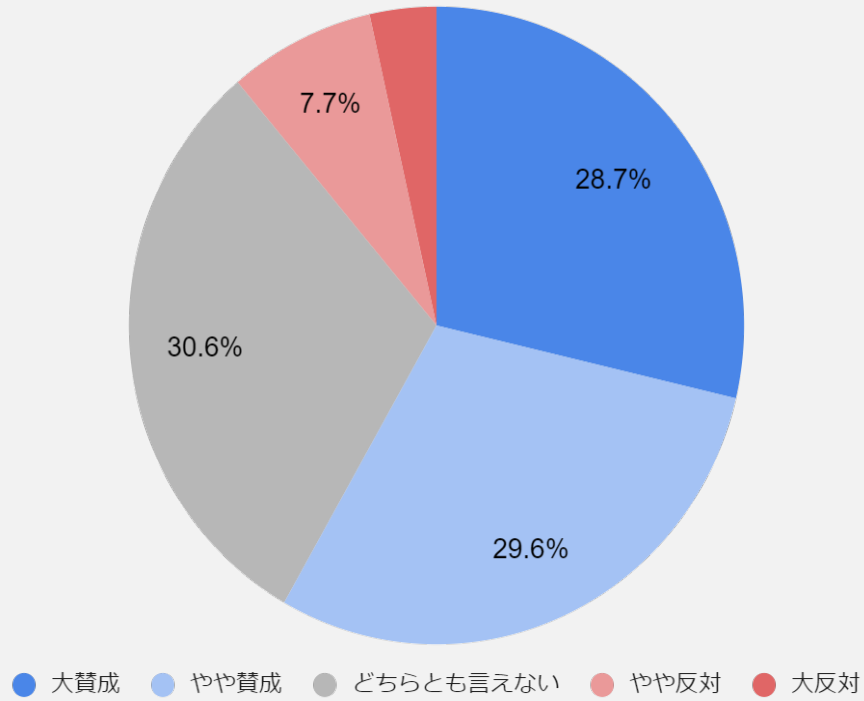
主な反対の理由

- ・金銭や立地の面から指導者の質に差が生じ、競技上の格差が拡大する
- ・地方では指導者の確保が困難になる
- ・プロの指導者は指導力もあっていいと思うが、学校の先生が一番安心できる

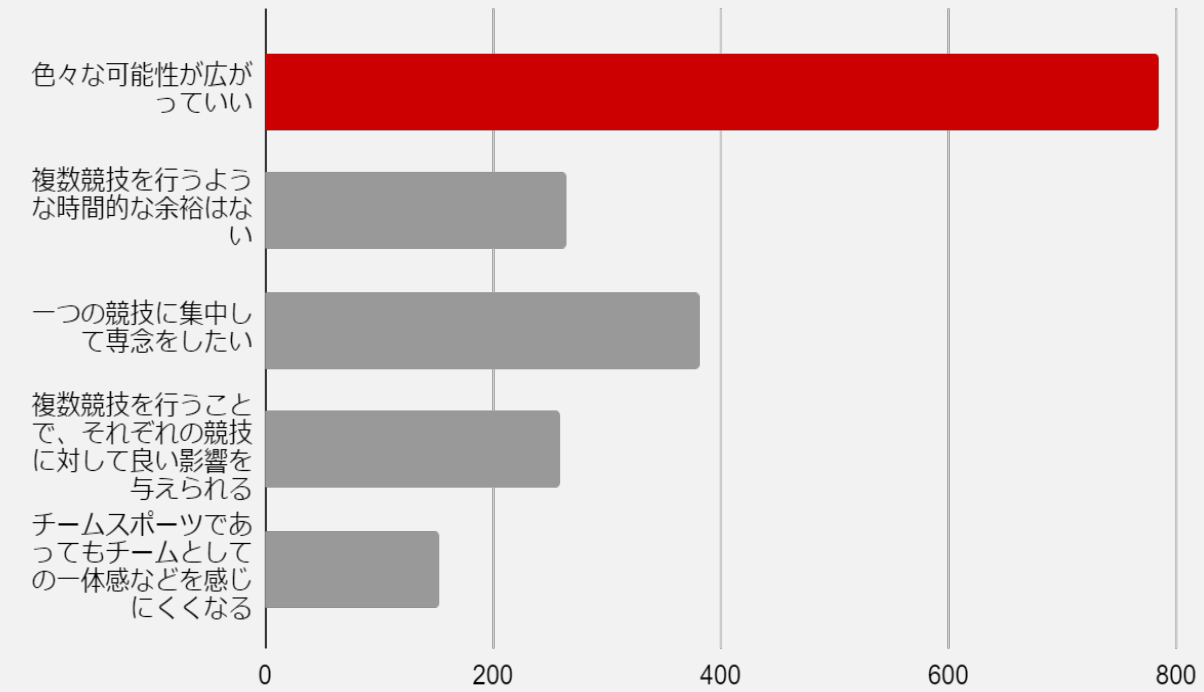
Q6 「複数競技への取組を可能にする環境整備」に対する賛否・感想

複数競技・種目に取り組むことに関して、大賛成・やや賛成が58.6%となった。
感想としては、「色々な可能性が広がっていい」という肯定的なものが多くみられた一方、「一つの競技に集中して専念をしたい」というものもみられた。

Q6：地域クラブに移行することで、単一の種目・競技ではなく複数競技・種目に取り組むことも可能になります。これについて、どう思いますか？



Q6の複数競技への参加が可能となることの影響や感想としてどのようなものがありますか？



Q6 「複数競技への取組を可能にする環境整備」 に対する賛否の理由

Q6 の回答を選択した理由についてお聞かせください。（任意・自由記述）

主な賛成の理由

- ・ 自分に適した競技を見つけることができる
- ・ 多様な経験をすることで、視野を広げることができる
- ・ 部活動で見つけることができなかった自分の得意・不得意を見つけることができる

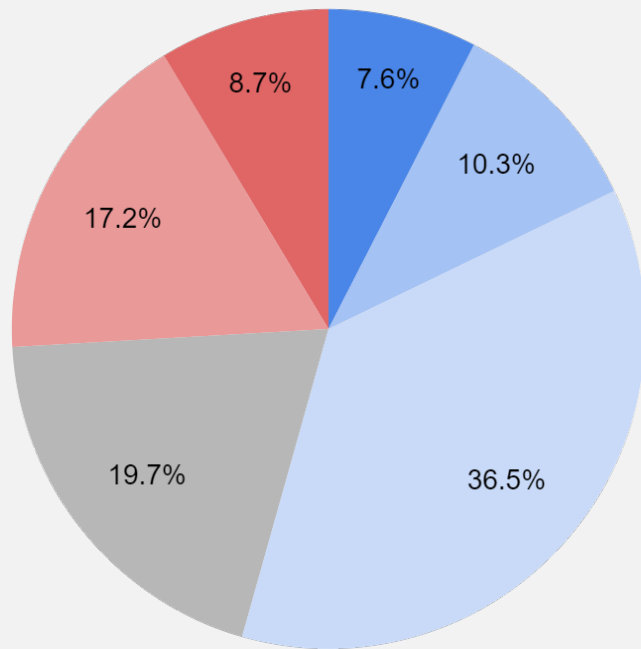
主な反対の理由

- ・ 一つの競技に集中したほうが競技力向上に繋がる
- ・ 怪我のリスクが増える
- ・ 試合のスケジュールリングなどの面で現実的ではないと思う
- ・ 複数競技に取り組むと一つ一つの競技が中途半端になってしまうかもしれない

Q7「会費の適切な設定と保護者等の負担軽減」に対する賛否・感想

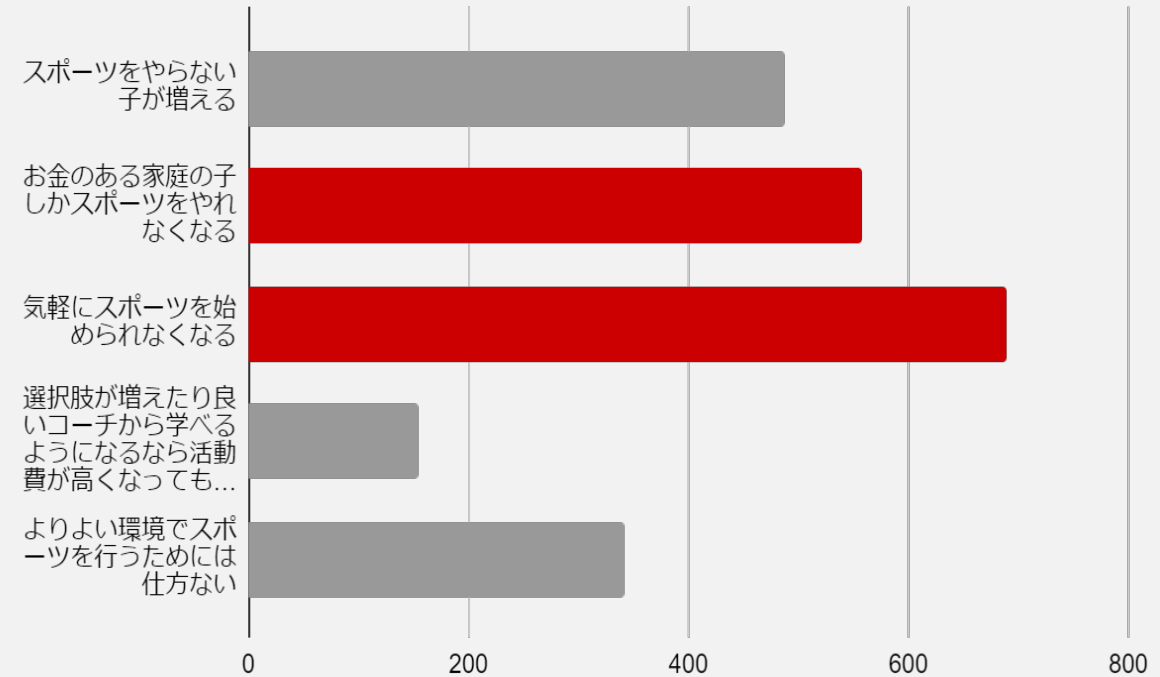
活動費用の負担が増加する可能性について、大賛成・やや賛成が17.9%、大反対・やや反対が25.9%となった。感想としては、「気軽にスポーツを始められなくなる」や「お金のある家庭の子しかスポーツをやれなくなる」などの懸念が多くみられた。

Q7：地域クラブに移行することで、学校部活動に比べて、活動費用がかかる可能性があります。これについて、どう思いますか？



● 大賛成 ● やや賛成 ● 望ましくないがやむを得ない ● どちらとも言えない ● やや反対 ● 大反対

Q7の地域クラブが学校部活動に比べて活動費用がかかることの影響や感想としてどのようなものがありますか？



Q7 「会費の適切な設定と保護者等の負担軽減」 に対する賛否の理由

Q7 の回答を選択した理由についてお聞かせください。（任意・自由記述）

主な賛成の理由

- ・ 現在も強豪校では多額の部費等があることが多く、地域移行にしてもあまり変わらない
- ・ 自分のやりたいことをやるために支払うお金であればしょうがないと思う

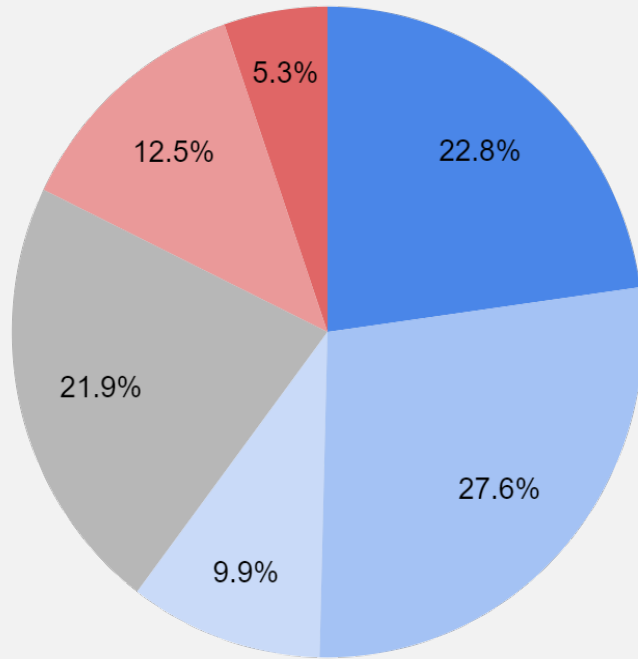
主な反対の理由

- ・ 親に負担がかかってしまい、スポーツを止めざるを得なくなってしまう
- ・ 家庭の金銭的背景等に関わらず多くの子どもがスポーツをできるという部活動のメリットが失われてしまう
- ・ 家庭の経済状況による教育格差が生じてしまう
- ・ 家庭の経済状況によって経験できる活動の量が変化するのは好ましくない。学校教育の場で平等な活動機会があることが望ましい

Q8「地域クラブ等の大会への参加機会の確保」に対する賛否・感想

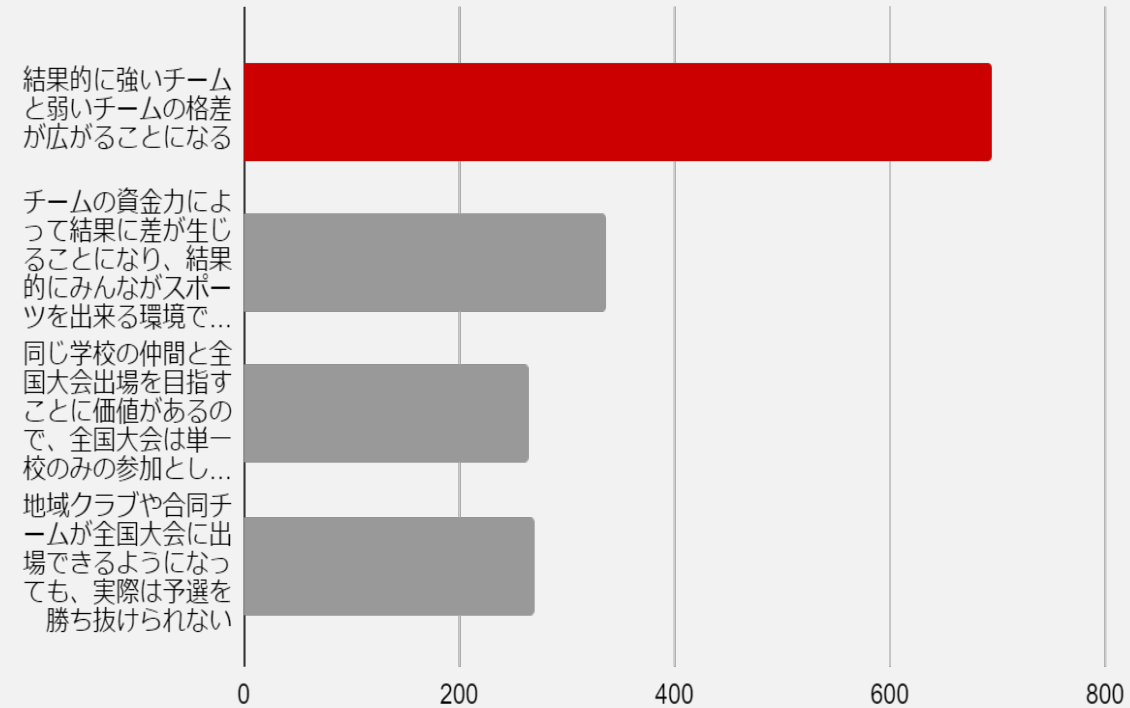
地域クラブや合同チームの大会への参加について、大賛成・やや賛成が50.4%となった。感想としては、「結果的に強いチームと弱いチームの格差が広がることになる」という懸念が多くみられた。

Q8：地域クラブ活動や複数校合同チームの会員等も参加できるように、大会のあり方が見直されます。中学校の全国大会は、令和5年度より地域クラブ活動や複数校合同チームの会員等も参加できることが決定しています。将来的には、高校生の大会においても、大会への地域クラブの参加が出来るようになる可能性があります。これについて、どう思いますか？



● 大賛成 ● やや賛成 ● 望ましくないがやむを得ない ● どちらとも言えない ● やや反対 ● 大反対

Q8の全国大会等に地域クラブ活動や複数校合同チームが出場できることの影響や感想としてどのようなものがありますか？



Q8「地域クラブ等の大会への参加機会の確保」に対する賛否の理由

Q8の回答を選択した理由についてお聞かせください。（任意・自由記述）

主な賛成の理由

- ・ 色々なチームと対戦することができるようになることで、競技経験を多く積めるようになる
- ・ 今までよりも強いチームと戦うことができるようになる

主な反対の理由

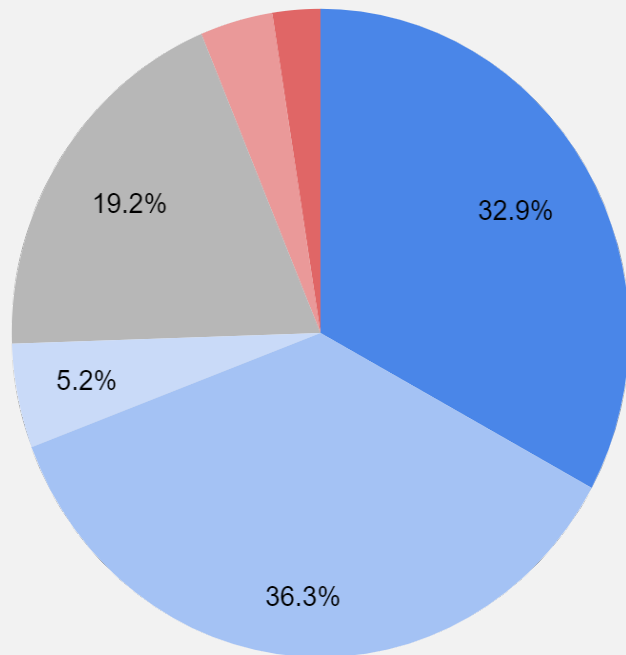
- ・ チーム間の格差が固定化し、勝ち上がりづらくなる
- ・ 部活動同士（学校同士）の戦いをしたい
- ・ これまでの部活動の業績や伝統がなくなってしまう
- ・ 部活動とクラブチームでは事情があまりにも違い過ぎるため、クラブチームには一定の規格(活動頻度の制限や選手の推薦獲得の有無等)を設けて、参加資格を与えるべき
- ・ クラブチームが大会を総なめし、学校の部活動が廃れる可能性が高い

Q9「多様な大会の開催」に対する賛否・感想

大会の多様化について、大賛成・やや賛成が69.2%となった。

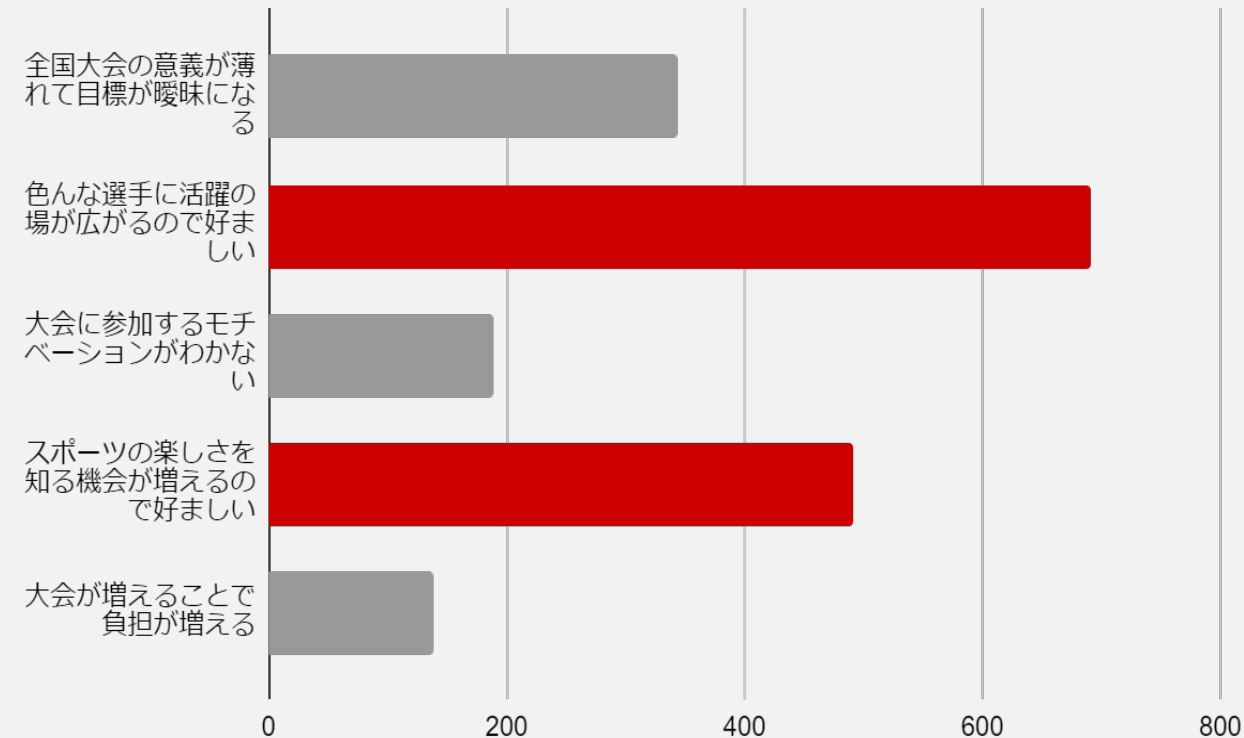
感想としては、「色々な選手に活躍の場が広がるので好ましい」や「スポーツの楽しさを知る機会が増えるので好ましい」という肯定的なものがある一方、「全国大会の意義が薄れて目標が曖昧になる」という懸念もみられた。

Q9：今後は、勝敗や高い水準を競い合う大会だけではなく、生徒の交流を目的とした大会や、リーグ戦の導入・能力別の大会の開催など大会の多様化が目指されています。これについて、どう思いますか？



● 大賛成 ● やや賛成 ● 望ましくないがやむを得ない ● どちらとも言えない ● やや反対 ● 大反対

Q9の大会の多様化の影響や感想としてどのようなものがありますか？



Q9「多様な大会の開催」に対する賛否の理由

Q9の回答を選択した理由についてお聞かせください。（任意・自由記述）

主な賛成の理由

- ・他校との交流を深めることができるようになる
- ・クラブや部活動のレベルに合わせた試合ができるようになり競技レベルがアップする
- ・より多くの人がスポーツを楽しめるようになる
- ・学生スポーツの目的は教育であり、勝敗に固執しすぎない大会も必要である

主な反対の理由

- ・大会に出場するからには勝敗にこだわりたい
- ・大会の数を増やすと、一つの大会に充てることができる予算や人が少なくなってしまう
- ・年によって実力が異なるため、能力別の大会が実施可能とは思えない

アンケート結果に基づく 「スポーツを止めるな」の意見

「スポーツを止めるな」からの提言

学校の部活動が直面する課題に対応し、子どもたちが将来にわたりスポーツに親しむ環境を提供するためには、部活動改革は急務であり、本ガイドライン案の方向性に対しては、概ね賛同します。

しかし、これまでの学校教育において部活動が担ってきた役割を鑑みると、地域クラブへの移行による教育現場の損失については、改めて再考すべき点も残されているのではないのでしょうか？

心身を磨き伸ばす大切な時期に学ぶべきことは何か、部活動を通じて得られた能動性やコミュニケーション能力、リーダーシップ等を学ぶ機会は、学校教育から部活動が切り離され、地域クラブに移行した際に補完することができるのか。部活動のない学校現場で、これまでと同様に生徒にそれらを得る機会を与えうるのか。

学校が強制参加の塾になってしまわぬよう、学校教育のあり方を含め、部活と地域クラブ、競技・大会志向の活動とレクリエーション的な活動等が並立できる仕組みを検討する必要があると、我々は考えます。

意見 1 「適切な休養日等の設定」について

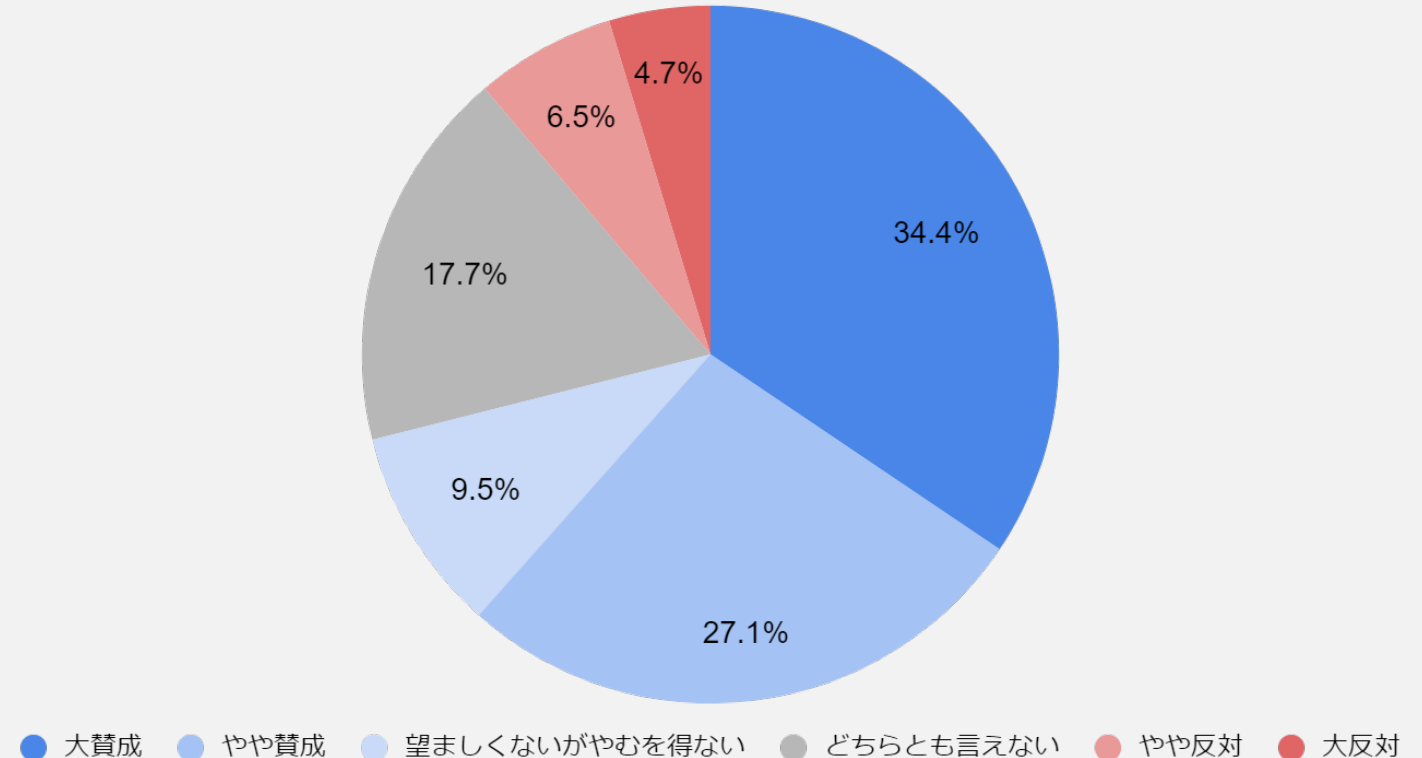
適切な休養日の基準として活動日数・時間を一律に制限することで、競技レベルの低下とそれに伴う怪我のリスク等が生じる可能性もあることから、活動内容に応じて柔軟に再考する必要がある。また、各チームによって状況が異なるため、各チームの裁量を増やすべきである。

【理由】

休養日の設定には、半数以上がポジティブな反応を示している。一方、活動時間が十分に取れないことによる弊害に対する懸念の声も多くあることから、一律の制限は不適切で、競技や部活動の活動内容や実態に応じた休養日の検討が必要であると考える。

【ガイドライン対応箇所】：Ⅰ.3.ア p.10, Ⅱ.3.(5) p.18

Q1：学期中は週2日以上（平日1日、週末1日以上）の休養日を設定し、1日の活動時間を、平日では2時間程度、休日は3時間程度とするなど、活動時間が制限されることについてどう思いますか？



意見 2 「多様なニーズに応じた活動環境の整備」について

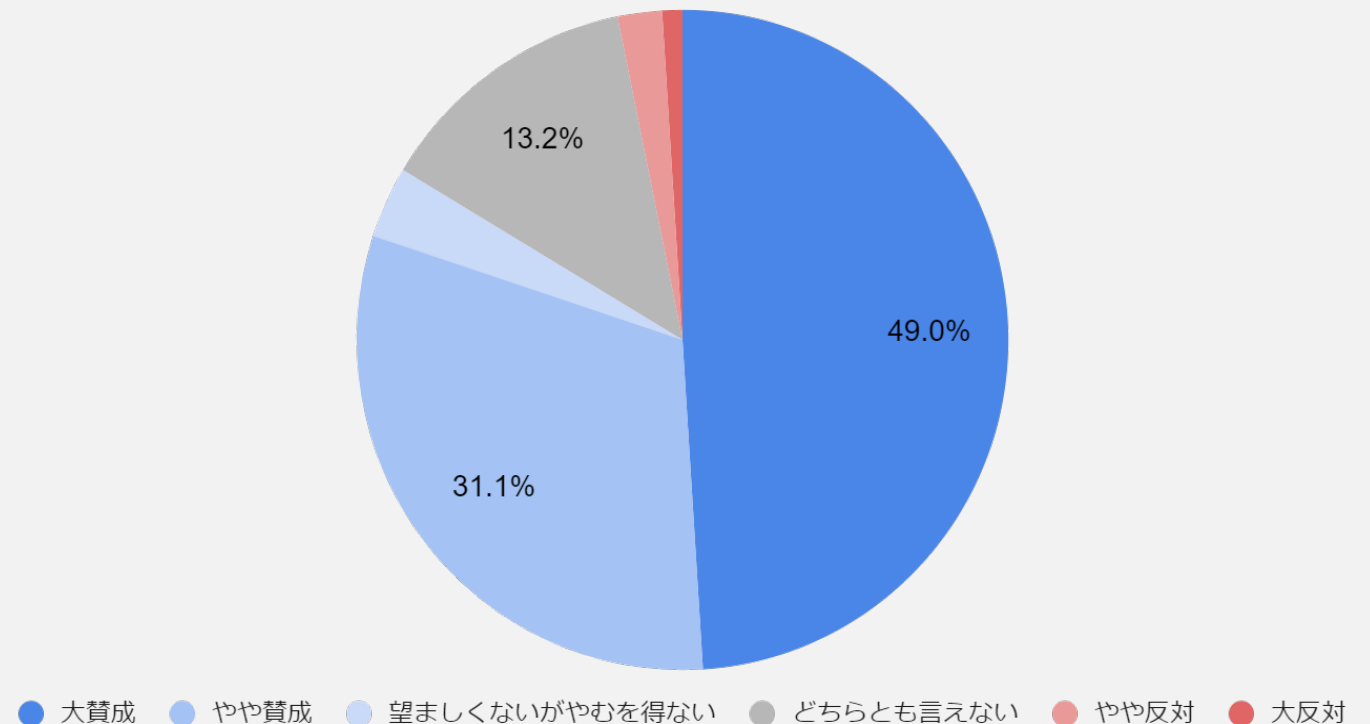
多様なニーズに応じた活動環境の整備については、多くの学生に自分のレベルに応じたスポーツに取り組むきっかけを与えることから、是非推進すべきである。ただし、結果的に、メジャースポーツのみで多様性が確保され、マイナースポーツの競技人口が更に減少することにならない仕組み作りが必要である。

【理由】

大半がポジティブに受け止めている。一方で、現状でも部員確保が難しい競技等においては、競技レベルごとのチームや大会を構成することは困難、かつ指導者を多数確保することも難しいことから、結果的に競技人口の減少に繋がるのではないかと懸念がある。

【ガイドライン対応箇所】：Ⅰ.4.アp.11

Q3：性別や障害を問わず、技能等の向上や大会等での好成績を収める以外にも、気軽に友達と楽しめる、適度な頻度で行える等多様なニーズに応じた活動が行うことができるよう環境を整備することが考えられています。これについて、どう思いますか？



意見 3 「合同部活動の取り組み推進」について

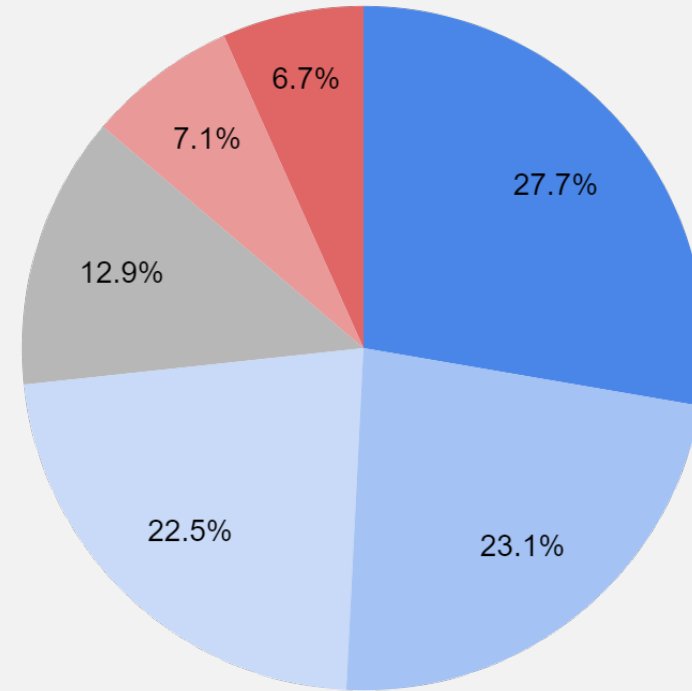
合同部活動の推進に対しては、少子化や指導者不足の現状からするとやむを得ない。導入にあたり、合同部活動による弊害にどう対応するか、合同実施環境でも帰属意識、仲間意識を醸成し一体感を持った運営をするための工夫が必要である。

【理由】

部活動を取り巻く状況から合同チームとなることはやむないことを認める一方で、特に、チームスポーツにおいては、学校単位で部活動を行うことに意義を見出す意見や、有事の際の責任分界点が不明瞭であることへの懸念などが示された。学校単位での部活動によって担保されていた教育効果をどのように補完するかの検討が必要である。

【ガイドライン対応箇所】：Ⅰ.4. イ p.11

Q2：部員減少や指導者不足などの理由で単一の学校で学校部活動を継続することが難しい場合には、複数校で合同チームを作り、部活動を行うこととなります。これについて、どう思いますか？



● 大賛成 ● やや賛成 ● 望ましくないがやむを得ない ● どちらとも言えない ● やや反対 ● 大反対

意見4 「地域クラブの整備」について

学校教育の一貫である部活動を地域クラブに移行しても、引き続き、学校教育はこれまでと同様の役割を果たし、現状の学校教育の維持をすることが可能か。指導要領にある「生きる力」を授業だけで得ることが可能なのか等、【変えることによるリスク】を検討すべきである。地域クラブへの移行により、多くのマイナースポーツ（特に大人数でやる競技）の競技人口の激減、十分な財源が確保されていない環境下で発生するコーチングの質の低下、大会運営で教員が担ってきた役割を誰がどの財源に基づき担うのか等、多岐にわたる課題が残っている。

また、怪我の発生時の責任の所在について、外部指導員の指導下で学校施設を使って重傷事故が発生した場合に、学校が責任を追うことになれば、結果的に、教員の負担は軽減されない。これらの責任範囲の明確化等についても、精査する必要がある。

【理由】

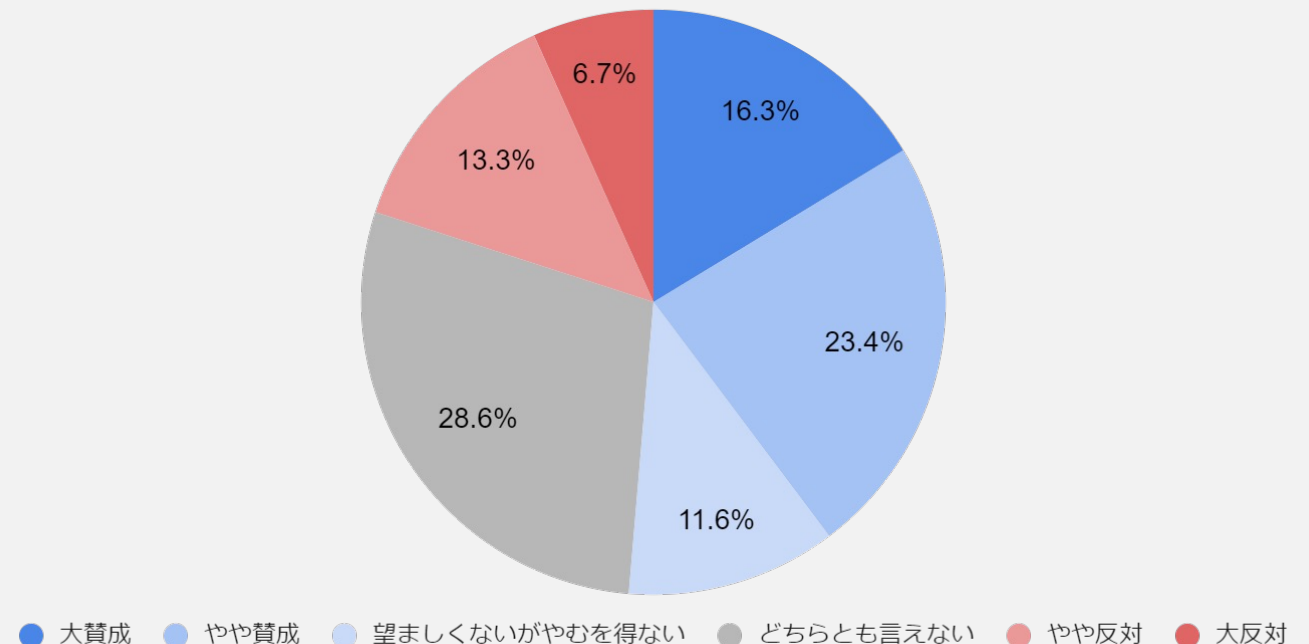
地域クラブへの移行については、一定のメリットを認めつつも、学校でスポーツを行うことに教育的な意義を見出す意見も多く、地域クラブ移行による弊害についての多くの懸念が寄せられている。

また、地域クラブへの移行によって、スポーツを始めるきっかけを失ったり、競技によっては衰退につながる可能性があるといった危機感も多い。地域クラブへの移行により、部活動改革の目的を遂行出来るのかについては、今後も継続的な議論が必要である。

【ガイドライン対応箇所】：Ⅱ 【新たな地域クラブ活動】 p.13

Q4：単一の学校の部活動から、地域クラブに移行することについて、どう思いますか？

（地域クラブは、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、体育・スポーツ協会、競技団体、クラブチーム、プロスポーツチーム、民間事業者、フィットネスジム、大学、保護者会・同窓会、複数校の統合チーム等多様な形が想定され、地域の実態やニーズ等に応じて決定されます。）



意見5「多様な指導者の確保」について

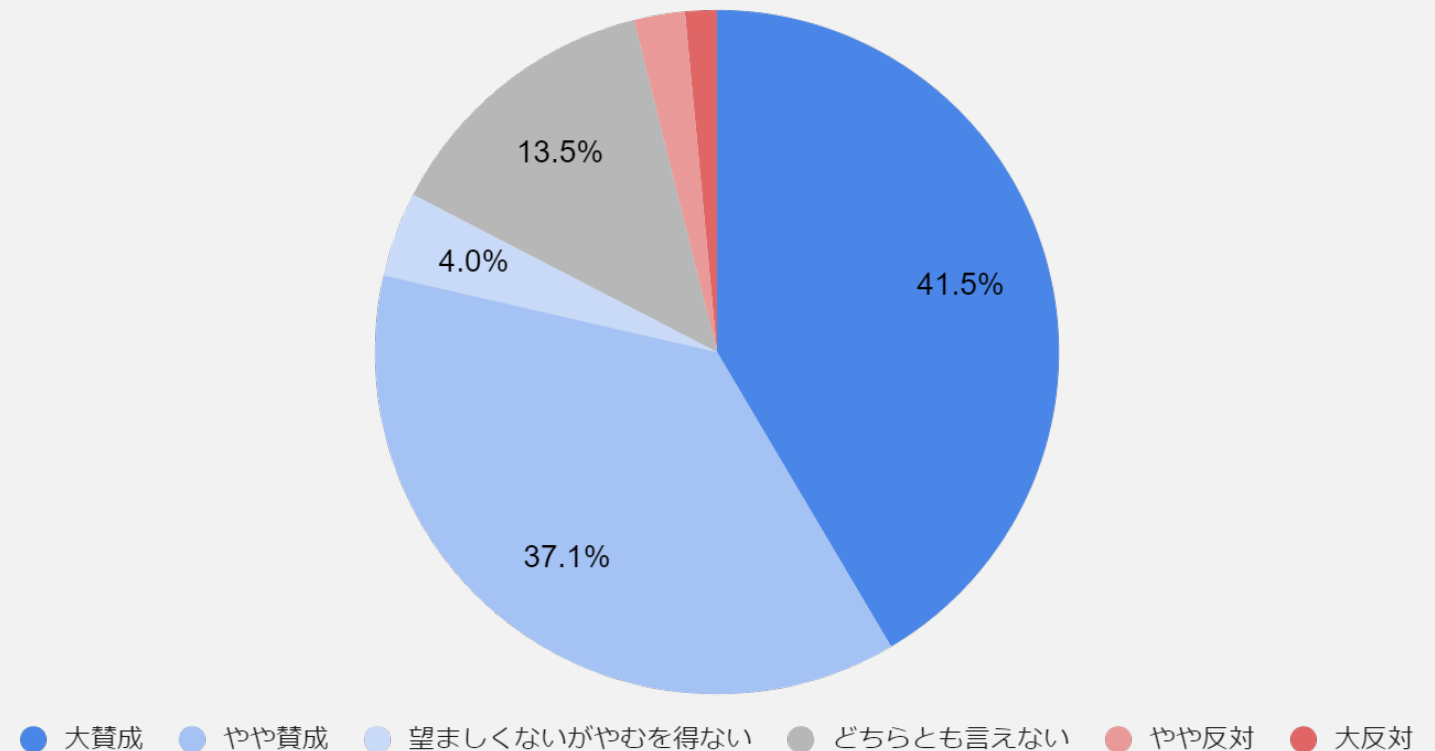
教員に限らず、多様な指導者による指導が可能となることのメリットは多々ある。一方、地方における指導者確保の困難さなどから、指導者の質の違いによる競技力の地域間格差が更に拡大しないような仕組みの構築が必要である。

【理由】

多様な指導者の確保については、とりわけ学生からは概ねポジティブに受け止められている。一方で、地方における指導者の確保の難しさや、その結果として生じる指導力の違いに伴う競技力の地域間格差拡大が深刻化する可能性もあるため、継続的な検討と仕組み作りが必要である。

【ガイドライン対応箇所】：Ⅱ.2.(3)③アp.16
「地域クラブの整備」

Q5：地域クラブに移行することで、指導者が学校の先生だけではなく、プロの指導者、元プロ選手、競技・活動経験のある大学生や保護者など、多様な関係者から確保されることになります。これについて、どう思いますか？



意見6「複数競技への取組を可能にする環境整備」について

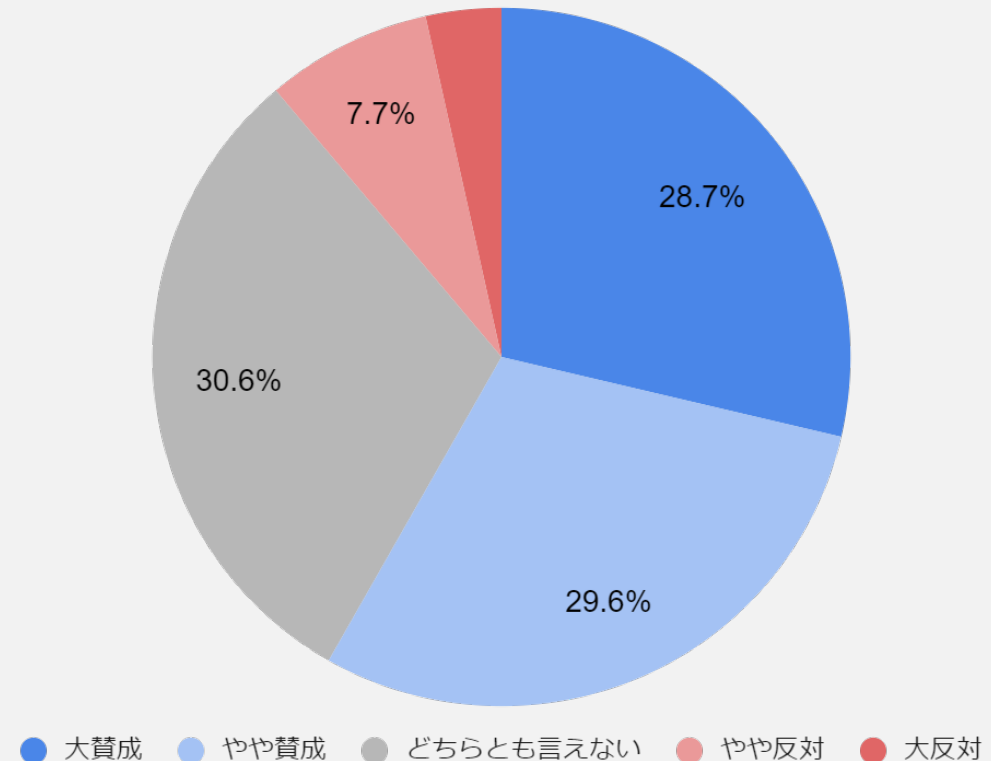
複数の競技を行うことで、自らの適性にあった競技を選択可能となったり、将来的に選択する競技への好影響を与えられる等の理由から、複数競技に取り組む環境の整備は好ましい。一方で、活動時間等が制限される中で、複数競技への取組と充実した活動実施の両立の実現可能性には懸念がある。

【理由】

複数競技への取組については、選択肢が増えること等について、ポジティブに受け止める意見が多数であった。しかし、一つの競技に集中することのメリットや試合のスケジュール等で複数競技を行うことが現実的ではない等の意見も寄せられており、継続的な検討と仕組み作りが必要である。

【ガイドライン対応箇所】：Ⅱ.1.イ p.13

Q6：地域クラブに移行することで、単一の種目・競技ではなく複数競技・種目に取り組むことも可能になります。これについて、どう思いますか？



意見7「会費の適切な設定と保護者等の負担軽減」について

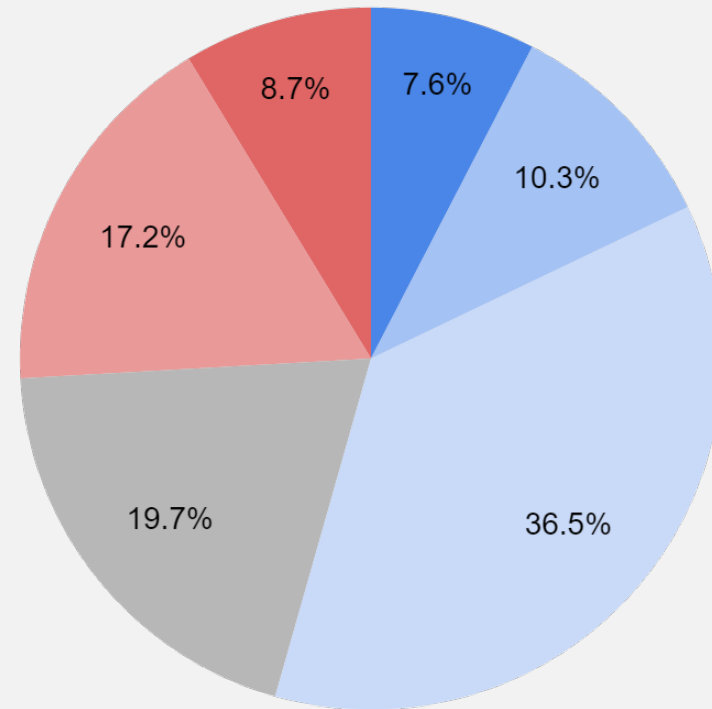
ガイドライン中には、「活動の維持・運営に必要な範囲で、可能な限り低廉な会費を設定」とあったが、現実的には、学校部活動よりも負担が増加する可能性が高い点に、懸念がある。また、経済的に困窮する家庭のみへの支援が、結果的に参加者の不満や不平等感に繋がる点にも配慮が必要である。特に、活動の有償化・負担の増大により、地域クラブで競技を継続しない生徒が増加することが予想されることから、これらに対して真摯な取組みが求められる。

【理由】

レベルの高い指導を受けられることや現状の強豪校の部活動の経済的負担が大きい等の理由から、負担が増大することを許容する意見もあった。一方で、経済的負担を理由にスポーツに取り組めない子が増えてしまう等、本来の部活動改革の目的に反する結果を生じさせてしまうことへの懸念の声も多数あった。

【ガイドライン対応箇所】：Ⅱ.2.(7)ア・イ p.20

Q7：地域クラブに移行することで、学校部活動に比べて、活動費用がかかる可能性があります。これについて、どう思いますか？



● 大賛成 ● やや賛成 ● 望ましくないがやむを得ない ● どちらとも言えない ● やや反対 ● 大反対

意見8「地域クラブ等の大会への参加機会の確保」について

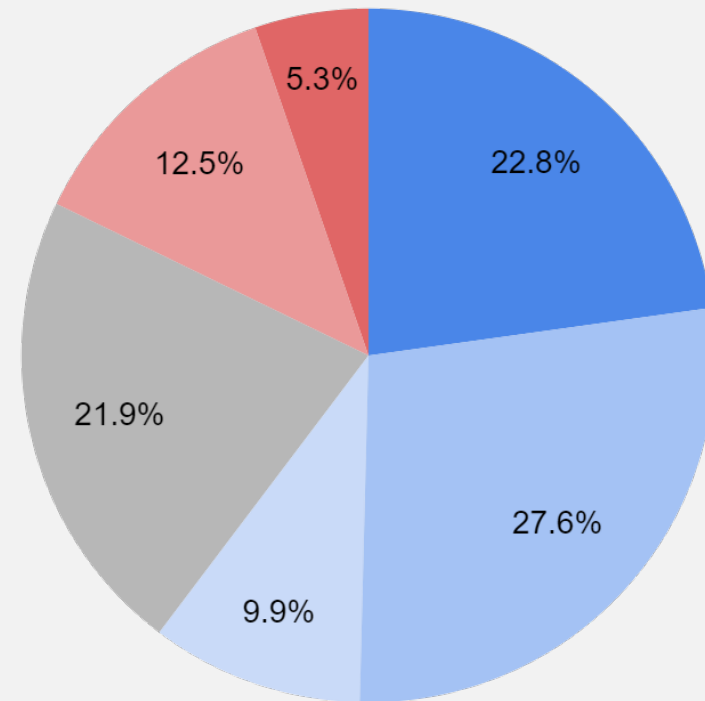
地域クラブ等が全国大会等への参加を可能とすることについては、今後の部活動改革の方向性に合わせたフォーマットの変更として不可避である。一方で、学校単位で全国大会を目指すことの教育的意義を重要視する声もあることから、継続的な検討が必要である。また、結果的に地域クラブが競争的優位な環境にならないよう、公平な環境整備も不可欠である。

【理由】

地域クラブ等の大会参加に対しては、半数以上がポジティブに受け止めている一方、学校単位での活動が中心である現状では、学校単位で参加することが重要であるとの意見も多数あった。また、学校における部活動と地域クラブにおける練習環境が違い過ぎることへの危惧もある。部活動と地域クラブの参加資格の統一（活動頻度の制限や選手の推薦獲得の有無）を設定する必要性などの声が寄せられている。公平な大会の実現のための仕組みの検討が求められる。

【ガイドライン対応箇所】：IV.1.アp.26

Q8：地域クラブ活動や複数校合同チームの会員等も参加できるように、大会のあり方が見直されます。中学校の全国大会は、令和5年度より地域クラブ活動や複数校合同チームの会員等も参加できることが決定しています。将来的には、高校生の大会においても、大会への地域クラブの参加が出来るようになる可能性があります。これについて、どう思いますか？



● 大賛成 ● やや賛成 ● 望ましくないがやむを得ない ● どちらとも言えない ● やや反対 ● 大反対

意見9「多様な大会の開催」について

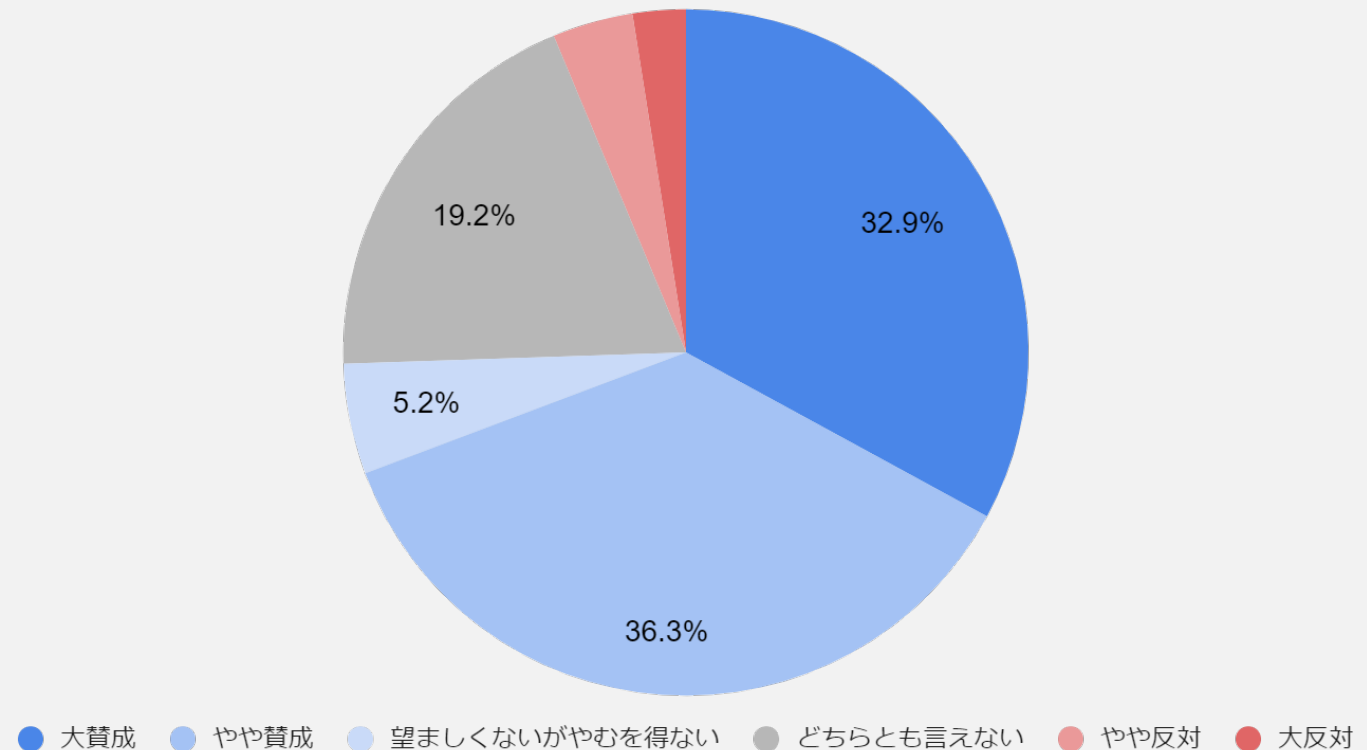
生徒間の交流、高いレベルでの競技等、目的別に多様な大会を開催することは、誰もが参加機会を得ることに繋がり、結果的にスポーツに親しむことを可能とすることからも、推進すべきである。一方で、多様な大会運営の実務上の負担増大など、現在の都道府県別の縦割り構造では実現が困難な点も多々あることから、フォーマットの設定においては柔軟な対応が求められる。

【理由】

多様な大会の開催については、ポジティブな意見が好意的な回答が7割程度となった。ただし、現実的には、大会ならびにチームが多様化することで、マイナースポーツではそれらのフォーマットが成立しない可能性も高くなる。結果的に、メジャースポーツの多様性のみが高まることにならないよう、広く意見を集めることが重要である。

【ガイドライン対応箇所】：IV.4.オp.29

Q9：今後は、勝敗や高い水準を競い合う大会だけではなく、生徒の交流を目的とした大会や、リーグ戦の導入・能力別の大会の開催など大会の多様化が目指されています。これについて、どう思いますか？



#スポーツを止めるな

昨日より高いハードルに挑みたい、
仲間とかけがえのない時間を重ねたい、
自分をもっと自由に表現したい。

大きな夢を抱きながらも、
いま思うようにチャレンジできないアスリートがたくさんいる。
わたしたちは、あなたの力になりたい。
流してきた汗を、未来につなげたい。

スポーツを愛し、スポーツに打ち込み、スポーツと生きる、
すべての人の味方でありたい。

わたしたちは、動き出す。わたしたちは、変えていく。